# 令和５年度
# 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業
# （地域の中核劇場・音楽堂等活性化）
# 成果報告書

| | | |
|---|---|---|
| 団体名 | | 特定非営利活動法人ふらの演劇工房 |
| 施設名 | | 富良野演劇工場 |
| 助成対象活動名 | | 公演事業 |
| 内定額(総額) | | 6,435 （千円） |
| | 公演事業 | 6,435 （千円） |
| | 人材養成事業 | 0 （千円） |
| | 普及啓発事業 | 0 （千円） |

## １．事業概要

### （１）令和５年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程<br>主な実施会場 | 概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等） | 入場者・参加者数（人） | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 富良野ＧＲＯＵＰ公演<br>2023 冬「悲別」 | R5 年 12 月 8 日～17 日 | 「悲別 2023」/1 時間 40 分/1 幕/脚本・監修:倉本聰/演出：久保隆徳/出演：富良野 GROUP 他オーディション | 目標値 | 2,500 |
| | | 富良野演劇工場 | | 実績値 | 2,264 |
| 2 | ELEVEN NINES『 ひかりごけ』 | R5 年 9 月 3 日、4 日 | 「ひかりごけ」/1 時間 10 分/1 幕/原作：武田泰淳/脚本・演出：納谷真大/出演:斎藤歩,泉陽二,菊地颯平他 | 目標値 | 420 |
| | | 富良野演劇工場 | | 実績値 | 253 |

※ …新型コロナウィルス感染症の影響があったもの

## ２．自己評価

### （１）妥当性

| 自己評価 |
| --- |
| ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。 |
| 「富良野演劇工場」の**ミッション**は、1.**「感動を生み出すための活動拠点」**である事　2.**「老若男女すべての人々が集う交流拠点」**である事 3. 高い水準の芸術・文化を享受できる**「学びの拠点」**である事の 3 つを掲げている。そうある為に地域特性に合わせ実現可能なビジョンは⑤つ。① 過疎地でも良質でレベルの高いエンターテイメント作品の提供 ② 劇場経営の安定化を図るシステムの確立 ③ 市内外の観客動員による経済波及の創出 ④ 地域住民同士、住民と来訪者との交流の場の創出 ⑤ 全市民に「表現力、コミュニケーション」などの演劇ワークショップを実施し、演劇に親しむ機会を創出する。令和 5 年は、ビジョン実現に向け、2 公演を実施した。1. 倉本聰氏主宰、当館フランチャイズ劇団の富良野 GROUP 公演**「悲別 2023」**2.札幌演劇界を牽引する納谷真大氏主宰劇団 ELEVEN NINES 公演**「ひかりごけ」**。1.**「悲別 2023」**は、2017 年の倉本聰氏の舞台演出家引退宣言後、当館での倉本作品の実演が不可能と思われたが、後継演出家に指名された久保隆徳氏を中心に富良野 GROUP の人気公演を 10 年ぶりに復活させた。地域の住民が待ち望んでいたこのチャンスに、戦略の④と⑤の要素を取り入れ、実現まで漕ぎ着けた。2.**「ひかりごけ」**は、札幌圏を拠点とする、北海道を代表する劇団「ELEVEN NINES」の公演であり、大都市札幌からの観客動員による地域経済への波及効果を目指した。しかし、9 月実施の**「ひかりごけ」**は地域でインフルエンザが大流行した事や、12 月実施の**「悲別 2023」**は、新型コロナウィルスの感染拡大や暴風雪の影響で、直前に予約キャンセルが殺到。集客目標値を下回ってしまったのは残念ではあったが、厳しい状況下でありながらも実演に漕ぎ着け、来館者を満足させることが出来た。2 事業ともに、当館のミッションや地域の特性を活かした事業で、「富良野演劇工場」だからこそ、事業が適切に組み立てられ、地域全体が一丸となり、予定通り、実施することが出来た。 |
| 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 |
| **[文化的意義]**「悲別 2023」は、1990 年の初演から、約 30 年の間に当館で再演されて来た戯曲である。倉本氏によって、上演の度に改稿され、時代と共に進化し続けた作品であり、地域発の舞台作品と言える。高齢を理由に倉本氏が舞台演出を引退してからは再演が不可能とされた。しかし、今事業では、倉本氏に富良野で育成された演劇人たちが結集し、10 年ぶりの再演を志し、オーディションでスタッフ・キャストを決定した。倉本氏は監修として参加。完成された舞台は、目標に限りなく近い、観客動員を果たし、この事業の継続が可能であることを証明した。「ひかりごけ」は、戦時下に北海道知床で実際に起きた食人事件を元に戯曲家された作品である。極限下で問われる「人間の尊厳」について、深く考える場を提供出来た。<br>**[社会的意義]**「悲別 2023」は、エキストラを初めて一般市民から募集し、公演期間中に延べ 300 人近くの市民を本番の舞台に登壇させたことを始め、10 年ぶりの再演に地域が一丸となって取組み、成功を収めた事で、「演劇によるまちづくり」の意義を改めて認識する事業となった。[ひかりごけ]は、見る側の捉え方次第で、物語の解釈が変わってくる作品で、作・演出・出演の納谷氏を始め、出演者全員のアフタートークでの Q&A により、来館者が納得したという声が多く寄せられた。上演する事で「人間」の尊厳を考える、学びの場を創出することが出来た。<br>**[経済的意義]**「悲別 2023」は、観光地富良野の宿泊施設と連携し、「宿泊パック」を実施。200 人以上が、このサービスを利用。富良野市の主要産業の一つである観光の閑散期に、経済波及がある公演となった。「ひかりごけ」も、その作品の特質から、従来の顧客とは違う年齢層や市外からの客を動員出来た。 |

## （２）有効性

| 自己評価 |
| --- |
| 目標を達成したか。 |

**【目標①】ロングラン公演で観客動員を増加させ、収益の安定化を図る**

2017 年 1 月以来のフランチャイズ劇団によるロングラン公演が実現。動員数は前年度を大きく上回る見通し。入場料設定を札幌圏に匹敵する高い金額に設定したこともあり、事業計画の目標収益に近づけることが出来た。しかし、事業 1「悲別 2023」は、暴風雪に見舞われ、交通機関の運休、事業 2「ひかりごけ」は、地域のインフルエンザの大流行で直前にキャンセルが大量に出て、目標達成までには少し手が届かなった。

**【目標②】道内トップクラスの演劇作品を上演し、地域の芸術・文化の質の向上を図る**

●事業 1　倉本作品の復活で、マスコミの関心度も高くメディアの露出が多く、異例の注目度の中、満足度の高い評価を得ることが出来た。

●事業 2　大都市札幌の演劇界を牽引する劇団による道内初のツアーで道内各地からの来館者があった。重い作品テーマへのアンケート記述が多く、演劇を通して、人生を考える場を創出することが出来た。

**【目標③】地元在住の演劇人の登用等地域の協力などで、運営経費をスリム化し収益率をアップする。**

●事業 1　地元在住の演劇人を中心に、エキストラに地域住民を採用した。地域への経済波及効果への期待から地域の異業種と連携し、スタッフ・キャストの衣食住への協力を得て、運営経費のスリム化を図った。

●事業 2　劇団主宰者の納谷氏が富良野塾出身で、地元在住の富良野塾出身者を登用。経費のスリム化を実現。

**【目標④】新規顧客及びあらゆる世代の動員の増加を図る。**

●事業 1.2 とも大幅な新規顧客を獲得し、世代も従来のコアターゲットより幅を広げた。

**【目標⑤】バックステージツアーやアフタートークを実施し、来館者と出演者、劇場の交流を図る。**

2 事業ともそれぞれに、新型コロナウィルスとインフルエンザが再び拡大。感染防止対策の為、バックステージツアーを中止にした。**●事業 1** は、倉本氏のトークイベント、**●事業 2** は、アフタートークを実施

**【指標①】年間来館者数美増加**：目標：前年度 12%増→実績：約 15%**＝達成**

**舞台稼働率の増加：**目標：12%増→実績 13.2%**＝達成**

**【指標②】観劇者数の増加＝目標達成ならず**

・事業 1　目標：2,500 人→実績：2,264 人(90%の達成。暴風雪などで道内の公共交通のストップの影響)

・事業 2　目標：420 人→実績：253 人（60.2%の達成。管内インフルエンザ罹患率道内でトップレベルの影響）

**【指標③】収益率のアップ＝事業 1 のみ目標達成**

・事業 1　目標：54.7%→実績：55.4%（101.2%の達成）

・事業 2　目標：64.1%→実績：47%（73.3%の達成）R2 年度公演実施の平均が 20%以下だったことに比べれば検討したと評価する。公演数を増やすなど、具体的な対策のヒントを得たと思われる。

**【指標④】新規顧客と富良野圏域外の動員＝2 事業とも大幅に達成**

・事業 1　目標：新規顧客 50%の獲得→実績：71.3%(142.6%の達成)

・事業 2　目標：他地域からの観客動員 30%の獲得→実績：55.9%（186%の達成）

**【指標⑤】公演内容、関連イベントなど、値段、劇場サービスなど、満足度調査を実施。**

・事業 1・2　目標：平均満足度 75%以上→実績：平均満足度 76%（達成率 101%の達成）

※フリーアンサーで、事業 1 は、冬期開催へのアクセスの利便性の改善の要望と、事業 2 は、作品内容の理解に対し、アフタートークの実施への評価が散見された。

## （３）効率性

| 自己評価 |
| --- |
| アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。 |
| 2 事業とも計画通りの事業を実施することが出来た。それぞれに後述の課題はあったものの、制作・キャスト・スタッフ・来館者の工夫や努力により、計画通りの実施となった。<br>事業期間に関しては、事業 1**「悲別 2023」**の実施期間は、「12 月 8 日～17 日」の 13 公演であったが、暴風雪にも見舞われ、公共交通機関がストップしてしまう公演日もあった。自然が豊かな過疎地であるがゆえに、自然災害などのリスクも多く、近年では、どの季節にでも、その可能性はある。しかし、地域の宿泊施設との連携による宿泊パックの実施、ボランティアによる無料送迎バスの運行、SNS などの活用による、きめ細かい情報発信などにより、全 12 公演を予定通り実施し、終演後、観劇者それぞれが自宅等まで無事に帰るためのアテンドを行った。事業 2**「ひかりごけ」**については、9 月初旬の実施で、北海道における夏の観光シーズンがまだ継続されている状態であった為、スタッフ・キャストの宿泊費などが割高となった上、北海道における感染症の流行が集客を鈍らせたことは否めない。<br>●**「悲別 2023」**は富良野発の演劇を創作し発信するという「コンセプト」に沿った事業であり、ベストなタイミングであったと思われる。<br>●**「ひかりごけ」**も、観光産業の繁忙期や地域の一次産業である農業の繁忙期がやや収まった時期であり、主催事業を実施するには一番良いタイミングであったと思われる。 |
| アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。 |
| **事業 1「悲別 2023」は、**事業費が申請予算通りの執行であり、収益率(※)は、目標を少し上回る達成となった。(※収益率：目標 54.7%→結果 55.4%)。収入に関しても、ほぼ予定通りであったが、動員数は、前述のような理由により、目標値を 10%下回った。にも拘わらず、目標通りの収益率となったのは、チケット金額を申請時より 25%高く設定したことによる。これは、地方劇場であっても都会(札幌)並みの金額設定に変更したことが功を奏したと思われる。対価に見合う作品である事が結果として証明された。<br><br>**事業 2「ひかりごけ」は、**事業費が、申請時より 18%膨らんでしまった。収益率が 17%もダウンしてしまった。これは、舞台美術の仕込みを「演劇工場」仕様にリクエストをした為、現地スタッフの人数を予定より増やした。また、何回で重たいテーマの為に、観劇後のアフタートークに出演者全員の登壇を依頼したことなどによる。<br>前述の感染症の流行で、キャンセルが相次ぎ、結果的な動員が思った以上に伸びなかったが、満足度は得られたとの評価している。 |

## （４）創造性

| 自己評価 |
| --- |
| 地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。 |

**【地域の文化拠点としての機能】**

富良野演劇工場は、「創り手の為の劇場」をコンセプトに席数 300 余でありながら、施設全体の 2/3 が制作側のための空間となっている。（●舞台（両袖を含む）496.84 間口：12.5m、奥行：15m、高さ：14.46m、吊り物：バトン 27 本●客席（302 席）272.58 ㎡）2 つの事業（公演）とも、この劇場を知り尽くした舞台監督、演出らにより劇場の仕様に合わせた演劇空間を創り上げた。両作品とも再演で、他館の公演は行われているが、「富良野演劇工場」だからこそ表現できる唯一無二の演劇空間を今事業で披露した。

| 「悲別 2023」奥行を活かした盆踊シーン | 「ひかりごけ」暗闇を再現した洞窟 |
| --- | --- |
| | |

**【キーパーソンらが与えた成果】**

**事業①「悲別 2023」について**

**【原作・監修＝倉本聰】**

1977 年、富良野に移住。1984 年、役者と脚本家を養成する私塾・富良野塾を設立。2010 年閉塾後は、卒業生を中心に創作集団・富良野 GROUP を立ち上げ、富良野では、舞台公演を中心に活動する。富良野市名誉市民。高齢を理由に今作品の演出を辞退したものの、今作品では、原作者として、登場人物の生い立ちや普段の暮らしぶりといった「履歴」や脚本の行間で伝えるべきニュアンスなどを自ら教示。作品「悲別」が訴求する哲学を与えた。

**【監督＝久保隆徳】**

富良野塾 11 期生。倉本氏から演劇の薫陶を受けた久保氏が自ら上演を倉本氏に上演を願い出て、10 年ぶりの上演に漕ぎ着けた。「悲別」を次世代に繋げるために、キャストの大半をオーディションで決め、倉本氏作品の演出を氏以外で初めて勤める任を果たした。その結果、再演不可能と言われた倉本聰の舞台作品が今後も上演される可能性を開いた。

**【フランチャイズ劇団＝富良野 GROUP】**

倉本聰氏が主宰する当館のフランチャイズ劇団。稽古の拠点、制作に関するすべての工程を当館「富良野演劇工場で制作した。今事業では、富良野 GROUP に所属する俳優の他、全国からオーディションで選ばれた 20 代のスタッフ・キャストが参加。倉本作品を氏の門下生の富良野塾出身者だけに限らない劇団として、広がりを持った。

**事業②「ひかりごけ」について**

**【企画・制作・脚本・演出＝納谷真大】**

富良野塾９期生。札幌演劇界を牽引する劇団『ELEVEN NINES』を主宰。手がけた演出・脚本は、ジャンルや古今東西を問わず、数々の賞に輝く。俳優としても他劇団に出演し、富良野 GROUP にも所属。今回の事業では、特に札幌圏の演劇ファンに向けて、当館の存在を強く示してくれた。

| 自己評価 |
| --- |
| 地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。 |

倉本聰氏が東京から富良野に移住し約 47 年。演劇人の育成に取り組み地域発の舞台創作活動を始めて、約 40 年。「富良野演劇工場」が地域の芸術・文化の拠点をとして設立され、約 23 年。その間に、地元では「演劇のまち」を支える多くの人材が育って来た。今事業では、その集大成のような評価が各方面からなされた。

**【マスメディアの反響】**

【北海道新聞会員 WEB 版　限定記事より】2023 年 12 月 18 日 18:21

＝＝＝「倉本先生の教え、再確認できた」　富良野で「悲別 2023」千秋楽＝＝＝

「演劇集団「富良野 GROUP」による「悲別 2023」が 17 日、富良野演劇工場で千秋楽を迎えた。10 日間 12 ステージをやり終えた出演者たちに観客約 300 人が拍手喝采を送った。

炭鉱の町「悲別」が舞台の脚本は、公演期間中に毎日改稿されたという。出演者たちは、作・監修を務めた脚本家の倉本聰さん（88）と、演出の久保隆徳さん（57）の指導を受けて、せりふや表情などの表現の可能性を追求してきた。終演後、カーテンコールが繰り返され、4 回目に倉本さんが舞台に上がると、拍手は最高潮に。

倉本さんと、充実の表情を浮かべた出演者たちは深々と一礼し、観客からのスタンディングオベーションに応えた。～中略～今回の舞台にはオーディションで選ばれた若手俳優ら約 20 人も出演。久保さんは終演後の取材に、「若い人を指導する難しさを痛感しつつ、今まで倉本先生から教えられたことを僕ら（富良野塾の OB、OG）が再確認する時間になった」と振り返った。(相武大輝)」

上記の記事を始め、北海道新聞を中心に 2023 年 10 月から 12 月まで、7 回マスメディアで取り上げられた。

**【SNS での広がり】**

2 事業とも上演時には、感染症や天候の悪条件下で、動員数が伸び悩んでいた。結果的には、観劇者数の増加目標の達成は出来なかった。

・事業 1　目標：2,500 人→実績：2,264 人(90%の達成。暴風雪などで道内の公共交通のストップの影響)

・事業 2　目標：420 人→実績：253 人（60.2%の達成。管内インフルエンザ罹患率道内でトップレベルの影響）

しかし、両事業とも、観劇後の SNS での感想が次々とアップされるに従って、公演の認知と NPO 法人の活動の周知が広がった。令和 5 年度末には、全体的な来館者や新規顧客、富良野圏域外の動員に対する目標が達成された。

（年間来館者数=目標：前年度 12%増→実績：約 15%増舞台稼働率の増加/目標：12%増→実績 13.2%）

（新規顧客と富良野圏域外の動員↓

・事業 1　目標：新規顧客 50%の獲得→実績：71.3%(142.6%の達成)

・事業 2　目標：他地域からの観客動員 30%の獲得→実績：55.9%（186%の達成））

**【観客アンケート】**公演内容、関連イベントなど、値段、劇場サービスなど、満足度調査を実施。

・事業 1・2　目標：平均満足度 75%以上→実績：平均満足度 76%（達成率 101%の達成）

・フリーアンサー

【事業 1】冬期開催へのアクセスの利便性の改善の要望

【事業 2】作品内容の理解に対し、アフタートークの実施への評価が数多く回答された。

以上の結果から、事業実施について、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと判断できる。

## （５）持続性

| 自己評価 |
| --- |
| 事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。 |

【Plan】今事業の「劇場の活性化と実演芸術の水準の向上、地域コミュニティの創造と再生を推進する」助成趣旨に則り、2 つの目的を掲げた企画を実施した。

●富良野在住の脚本家、スタッフ、キャストの作品で、本番までの全ての工程を「富良野演劇工場」で実施する「メイドイン富良野のロングラン公演」を実施する。

●当館の特徴である演劇空間を活かした良質の作品を選定し、「ここにしかない感動」を味わえることができる機会を創出する。当事業が継続されることで、収益率も上がり、地域への経済波及効果が生まれ、「演劇が地域の主要産業」となることを目指し、当館開設 22 年間で構築したノウハウ、育成した人材を駆使し、「演劇によるまちづくり」に取り組む。

【Do】

**事業① 富良野 GROUP 公演 2023 冬「悲別」**

「富良野演劇工場」だからこそ制作できる倉本聰作品のロングラン公演が復活。当館フランチャイズ劇団で、倉本聰氏主宰する演劇集団「富良野 GROUP」の代表作品の 10 年ぶりの再演。演出には倉本氏から指名を受けた「富良野 GROUP」の俳優、久保隆徳氏を起用。倉本氏以外の演出では再演不可能といわれた作品を、「富良野 GROUP」とオーディションメンバーで復活させた。また、一般市民をエキストラに起用した地域住民参加型の演出を初めて施した。

**事業② ELEVEN NINES『 ひかりごけ』**

今作品は、「札幌劇場祭 2021」の 大賞を受賞作した質の高い作品。極限状態に置かれた人間が、生きるために「仲間の肉を食べる」という「生きること」を問いかける重いテーマを、富良野塾出身者の納谷氏の作品であることに信頼を置き、作品を選んだ。上演後のアフタートークでは、納谷氏を始め、出演者全員が参加し、更にテーマを掘り下げた結果、アンケートでは、今迄に例を見ないフリーアンサーの回答があった（従来ツリーアンサー回答の平均が約 30%から 90%以上）。

【Check】

・当館の設立のミッションは、収益を上げる目的ではなく、市民の感動の拠点を創出することである。そのための公設民営劇場であり、運営費は富良野市が担い、NPO 法人が収益事業を行い経営の安定化を図っている。今事業では、地域住民・行政の参加・協力を得て、関わった人たちが「演劇のまち・富良野」をより強く実感できたかを様々な振り返り（事項評価/観客アンケート/事後評価）で、認識するに至った。また、令和 5 年度の決算では、3 年ぶりに経常利益を黒字に転じる事が出来た。

※当館の持続性のサイクル